

農業経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 立岩寿一

◆学習・教育目標

1. ガイダンスとして、大学院での研究の方法と技術の習得をめざす。
2. グローバルなスケールのなかで現代の農業・農村をいかに位置づけ、そして世界経済のなかで農業と食料をめぐる問題の発現携帯、課題を検討する。
4. 受講生は研究論文構想の具体化と調査手法を理解し、論文を作成する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

学術書の読み方	論文の書き方	地域政策	農村の変容
日本の農業政	経済のグローバル化	農業の基層構造	今日の農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	[講義のはじめに]	[講義のはじめに]	準備すべき事項は次の2点が重要である。①事前に指定されたテキスト・文献を読んでおくこと。 ②レジュメ担当者は、事前に準備を進めておくこと。 毎回レポートを課するため、1～2時間程度の準備学習・復習時間を確保すること。
2	大学院における学術研	①学術書の読書方法、②アカデミック・ライティングの方法(論文の書き方)、③学術情報や知識の収集など。	
3	究の方法と技術の取得		
4	(1～3週)。		
5			
6	[後学期の主内容]グロ	[後学期] 国際的規模での食料の生産・消費体制、農業・食料をめぐる問題の現状を国際経済との関係で、	
7	ーバルなスケールのな		
8	かで、現代の農業・農		
9	村・農民をいかに認識し		
10	研究するか(4～15		
11	週)。	またアメリカを事例として、農業や食料と国民経済との関係を解明する。	
12			
13			
14			
15			

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

- * 『アメリカ農業を読む』 斉藤潔著/農林統計協会(2009年)
- * 『アメリカ農業・政策史』/服部信治著/農林統計協会(2010年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

クリスファー・D・メット他、村田武/磯田宏監訳『アメリカ新世代農協の挑戦』

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

課題の対する論述テスト(50点)/書評・レジュメ作成などに対する課題と評価(50点)

◆オフィスアワー

木曜三限(必ず事前に連絡すること)

◆その他受講上の注意事項

自主的に論文作成の課題に取り組み、自らの理論と実証に関する方法論を確立できるような態度で授業に臨むこと。